第20回世界石油会議ドーハ大会出展と カタール石油会社訪問

平成23年12月4日から8日の4日間、カタールのドーハにおいて、第20回世界石油会議ドーハ大会が開催されました。JCCPはブースを出展し、初めて世界石油会議参加を果たしました。また、滞在期間中、カタール石油会社（QP: Qatar Petroleum）の主要部門を訪問し、JCCP事業への協力のお願いをしました。

1. 第20回世界石油会議ドーハ大会

(1) 概要

世界石油会議は、3年に1度世界各地で開催されており、石油産業・技術に関して情報や研究成果を発表したり、参加者同士の交流を深めたりする世界最大の会議です。第20回ドーハ大会はカタール・ナショナル・コンベンションセンターにおいて開催され、4日間にわたり多数の発表と展示が行われました。参加者は95か国から5300人以上、日本からの参加者は200人でした。来場者は2万人を超え、過去最高を記録したそうです。JCCPからは、仁田リヤド事務所長、総務部反田参与と企画広報の北原が参加しました。

会場となったQNCC（Qatar National Convention Center）
40,000㎡　1万人収容　　設計　磯崎 新

(2) 経緯

平成22年4月に世界石油会議日本国内委員会からJCCPに参加のお声掛けがあり、世界中から石油関連産業関係者が集まるこの会議でぜひJCCP事業を紹介したいと考えたこと、また今回は中東で初めての世界石油会議となるため、その成功を期して、ホスト国カタールに対してできる限りの協力を行いたいと考えたことから、ブースを出展することになりました。

(3) 内容

1) 目的

JCCPのブース出展は、事業の紹介と過去30年間の産油国協力の貢献を伝えることが第一の目的ですが、JCCPの事業対象国が多数参加するこの会議は、卒業生やJCCP事業に関わったことのある要人に再会できるチャンスでもあるので、できるだけ多くの卒業生や要人に再会し、JCCPとの関係を繋ぎなおすことを第二の目的としました。

2) 展示ブースの構成

これまでのブース出展では動画とパネル展示によるJCCP事業紹介が中心でしたが、今回は思考を大きく変え、アトラクション的な要素を取り入れた造作展示ブースにすることにしました。

ガソリンスタンドをイメージしたサインボード

JCCPのブース

デザインと造作のコンセプトとして、次の点に重点を置きました。

- 日本のイメージを強調し、できるだけ多くの人を惹きつける
- 誰もが立ち寄りやすいデザインとし、コミュニケーションの場をつくる
- 卒業生・要人との再会の場にする

3) 来場者

日本庭園にいるような雰囲気のブース内で写真撮影をし、その場で写真をプリントして配りました。まるで日本で撮影したかのような写真は大変好評で、一時は順番待ちになるほど多くの来場者でにぎわいました。

4) 卒業生や要人との再会

開催の数か月前にメールやJCCP NEWSを通して、JCCPが世界石油会議に出展することを多くの卒業生やJCCP事業関係者に呼びかけ、再会と同時に名簿の更新をすることを目的に準備を進めました。その成果もあり、カタールをはじめとするGCC諸国、パキスタン、中国、インドネシア等の国から、卒業生が多数JCCPブースを訪ねてくださいました。

カタール国営石油会社メサイード製油所
アル・ホーリ運転部長（2列右）（TR-16-87参加）
アル・ジャシム保全部長（前列左）（2000年11月企業経由研修参加）
Maintenance Manager ほか QP Mesaieed Refinery の皆さん

カタール・ペトロリアム・インタナショナル アル・ヒットミ専務取締役（中央）
（TR-8-03参加）ほか QP の方々

お互いに再会を喜び合い、現在の所在を確認し、今後のJCCP活動の支援をお願いしました。特にカタールの約500人の卒業生には数回の呼びかけを行いましたので、大変多くの卒業生に再会することができました。卒業生が卒業生をつれてきてくださり、まさに、今回の目的である“再会の場”を実現することができました。集客のために用意した写真撮影も大いに役立ち、名簿管理システムを活用して、卒業生の名簿をその場で更新したり、顔写真を登録したりすることもできました。

名簿管理システムを利用して卒業生名簿の更新

オマーン石油ガス省のルムヒ大臣（H.E. Dr. Mohammed Bin Hamed Al-Rumhy, Ministry of Oil and Gas, Oman）には、以前からJCCP事業をご支援いただいていることから、今回もJCCPブースにお立ち寄りくださいました。また、オマーン石油精製・石油事業会社のアル・マフルキ総裁（Mr. Musab Al-Mahruqi, CEO, Orpic）にもお立ち寄りいただき、JCCPの事業内容を説明し、今後のご支援をお願いすることができました。

事前にJCCPニュースやメールなどで声掛けをしたこともあり、カタールや隣国の卒業生が多数JCCPブースに立ち寄ってくださいました。卒業生の方々が、皆さん重要なポジションに付き各部門で活躍しておられる事を知りました。また、たくさん

オマーン石油ガス省ルムヒ大臣（前列左）

オマーン石油精製・石油産業会社　マフルキ総裁（右）

の卒業生の方々から、JCCP での研修は何年たっても印象強く残っていて、経験したことはビジネスにも役立ち、日本人に会うと親近感がわいてくるというお話を聞きました。改めて JCCP 事業の成果を実感しました。

カタールにとって、サウジアラビアやクウェートに先駆けて、世界石油会議をドーハで開催するということは、世界に向けて産油国・産ガス国としての存在を示す大きな意味がありました。カタールは、オリンピックの招致に立候補したり、ワールドカップの開催国に決定したりして国際社会に貢献していますが、エネルギーの分野でも世界石油会議の開催により世界に大きなプレゼンスを発揮できたと思います。日本としては、世界石油会議日本委員会の下で、各団体・企業が一丸となって参加したことにより、カタールの強い思いに応えることができたのではないかと思いました。

2. カタール石油会社訪問（Qatar Petroleum: QP）

ドーハ滞在を有効に利用するため、カタール石油会社の主要部門を訪問し、JCCP 研修へ参加の呼びかけと協力をお願いしました。

(1) トレーニング部門訪問

平成23年12月4日(日)にQP トレーニング部門(Corporate Training）を訪問し、アリ・テレファット研修部門長（Mr. Ali Nasser Telfat, Corporate Training Manger）と面談をしました。アリ・テレファット部門長には、JCCP の人材育成事業の内容を紹介し、これまでの JCCP への支援のお礼と、引き続き今後の JCCP 研修への参加者派遣のお願いをしました。アリ・テレファット部門長は、「JCCP 研修は、たくさんの国から同じ職種の人が集まって一緒に研修を受けるので、この間、いろんな国の人と知り合い、相互に情報交換できるという特徴がある。QP の社員にとっては新しい文化に触れ視野を広げる良い機会である。QP にとしては、カスタマイズド研修よりも、他国からの参加者と交流できるレギュラーコースへの参加を希望している。ここに同席しているナワフ研修シニアスーパーバイザ（Mr. Nawaf Rashid Al-Kaabi, Senior Training Supervisor）も JCCP の卒業生（2004 年トレーニングマネジメントコース参加）なので、彼からも詳しい話を聞いている」とお話がありました。また、研修プログラムスーパーバイザのリンガット氏（Mr. Hermie Lingat, Programme Development Supervisor）をご紹介いただきました。JCCP からは、震災後の 9 月から大阪でコースを再開し、11 月からは東京で通常通りコースを再開したことを伝え、リンガット スーパーバイザが QP 各部門に研修参加を働きかけてくださることになりました。アリ・テレファット部門長はじめ QP トレーニング部門の皆さんのご支援のお陰で、4 月に開催する 3 つのコースには、6 名もの申し込みをいただきました。

QP 研修部門
リンガット氏（左端）、
アリ・テレファット研修部門長（左 2 番目）
ナワフ氏（右 2 番目）

(2) カタール人化推進戦略委員会（Qatarization Strategy Committee）

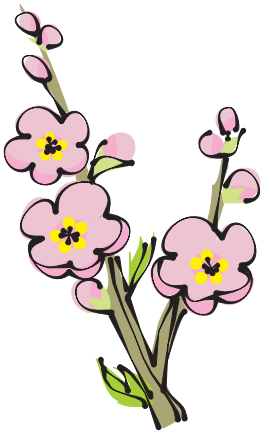
平成 23 年 12 月 7 日（水）にカタール人化推進戦略委員会のアル・サイアリ議長（Mr. Abubakr Amer Al-Saiari, Chairman）を訪問しました。アル・サイアリ議長は、国家戦略としてカタール人の能力開発を推進し、カタール人にカタール企業の重要ポストで活躍する機会が行き渡るようにする仕組みづくりを推進されています。今回、2006 年に HRM のコースに参加経験があるアル・サイアリ議長に JCCP 研修についてお話を伺いました。アル・サイアリ議長は、「JCCP の研修は、分単位で計画され、その通りに実施されていた。研修に参加して最も印象に残ったことは、時間が重要な経営資源であることを理解できたことである。研修内容だけでなく、ものの考え方、ふるまいなど、日本の文化をとおして、日本企業の生産性の秘密を理解できるようになった。これは自分のキャリアにも非常に役に立った。カタール人の若者たちにも自分と同じように日本の企業文化に触れる機会を作ってやりたいと思っている」と、21 日間の研修期間中に大変多くのことを吸収されたことを思い出してお話しいただきました。

カタール人化推進戦略委員会アル・サイアリ議長

リダ管理部長

(3) 人事総務部 総括部門

平成23年12月7日（水）に人事総務部総括本部の取締役代理のリダ・ナジム・アガ管理部長（Mr. Rida Nazim Agha, Acting Director Administration, Manager General Services）と面談をしました。リダ部長は2004年にHRMのコースに参加経験があり、JCCPの研修のことについて、よく覚えておられました。リダ部長は、「自分がJCCPの研修に参加したいと思った理由は、人事管理実務を勉強したいといったレベルのものではなく、日本の企業が世界的に成功を収めている理由を自分の目で確かめてみたかったためである。研修に参加して、いろんな企業を訪問する機会を得ることができ、日本の社会は倫理に基づいて成り立っていることが理解できた。経営者は従業員に対して経営を公開し、従業員は責任を持って仕事をし、企業に貢献している。日本の企業の成功の秘密を人・社会のシステム・文化から理解を深めることができたことは、自分の会社人生に大きな意味があった。カタールではカタール人化推進（Qatarization）が国家戦略になっており、常に“数”のQatarizationか“質”のQatarizationかが議論になる。私たちが“質”のQatarizationという目標を見失わずに推進していけているのには、この時の経験が非常に役立っている」と、JCCP事業と日本に対しての深い理解を語っていただきました。リダ部長は、出張中だったアル・マウライ取締役（Mr. Ahmad Al-Mawlawi, Director Administration）にも、今回のJCCP訪問の主旨を伝えてくださるとのことでした。

今回のドーハ大会をとおして、多くの卒業生や要人に再会することができました。多数の来場者の中でターゲットを絞って集客することは本当に難しいのですが、今回行った事前のお知らせメールはとても有効でした。また、庭園に見立てたブースでの写真撮影は多くの方に喜んでいただき、研修卒業生・要人との関係を結びなおす実り多い出展となりました。また、わずかな時間を利用して、カタール国営石油会社の主要な方々にお会いできたのも大きな成果でした。今後も、展示会を有効的に活用して、名簿の更新に努め、JCCPの最も大切な財産である卒業生との友好を深めていきたいと思います。

（総務部　北原 ますみ）